

調査・研究報告書の要約

書名	平成20年度製造業向け「プロジェクト&プログラム標準ガイドブック(P2M)」活用に関する調査研究報告書				
発行機関名	社団法人 日本機械工業連合会・特定非営利活動法人 日本プロジェクトマネジメント協会				
発行年月	平成21年3月	頁数	186頁	判型	A4

[目次]

序 (会長 金井 務)

はしがき (理事長 田中 弘)

委員会名簿

目次

はじめに

第1章 日本の製造業の新たな挑戦

1. 日本の製造業の事業戦略
2. 製造業の価値創造とプロジェクト指向経営
3. P2Mガイドブックの核心

第2章 製造業へのP2M適用

1. 製造業のプログラム&プロジェクトマネジメントの現状考察
2. 製造業へのP2M適用モデルの構築

第3章 プログラムマネジメントの実践

1. 製造業におけるプログラムマネジメント
2. 事業モデルとは何か
3. 事業モデルの外部環境との検証
4. 事業モデルの内部環境との検証
5. 事業モデルの実践段階可視化

第4章 プログラム&プロジェクトマネジメントの実践事例

1. 機械業界
2. 家電業界

3. プラント業界
4. 食品業界
5. ガラス素材業界

第5章 プログラム化時代の組織と人材

1. プロジェクト化時代と製造業の組織運営
2. プロジェクト組織
3. プロジェクト人材の育成と活用
4. 人材育成へのP2M適用

あとがき

[要約]

本調査研究では、製造業の各業種からのP2MユーザーとP2Mに精通した学識経験者を糾合して、製造業でのより一層の活用に向けて、製造業の現場の視点に立脚して、P2Mが有する潜在活用価値を最大限引き出し、我が国製造業の課題解決に資する活用ガイドブックの開発を試みた。

第1章では、まず、調査研究の命題である、製造業における高速回転のプログラム&プロジェクト指向経営の必要性を、経済産業省の「ものづくり白書」と製造業企業37社の協力を得て実施したアンケート調査結果から検証し、つづいて、P2Mガイドブックを読んでいる読者の利便にも配慮して、P2Mガイドブックの核心を解説した。

第2章では、第1節で、企業アンケート結果を解析し、「経営の重要課題は、安心・安全・環境・省エネなどの企業責任を果たしつつ、コア事業強化や海外事業展開などの攻めの経営を行えるような組織力強化が必要と」という企業の意味を読み取り、そのために、「戦略を構築して各組織のミッションを明確にして、施策群を統合的にマネジメント（つまりプログラムマネジメント）し、強力なバリューチェーンを築き上げる、またそれを支える人材のプログラム&プロジェクトマネジメント能力の向上を図る必要がある」というストーリーを導いた。また、第2節では、このアンケート結果を踏まえ、製造業へのP2M適用モデルを、① 戦略へのアプローチモデル、② プログラム&プロジェクト統合モデル、そして③ 実践プロセス評価モデル、に分けて考察し、提唱している。

第3章では、第2章で考察したP2M適用モデルを更に詳細に考察し、製造業におけるプログラムマネジメントの必要性、コアとなるプログラム型事業モデル、事業モデルの外部環境と内部環境に対する検証、ならびに事業モデルの実践段階での可視化、を提案している。

第4章では、調査研究委員会委員の出身母体である、機械業界、家電業界、プラント業界、食品業界およびガラス素材業界に分けて、各業界の特徴と市場環境に応じたプログラム&プロジェクトマネジメントの実践事例を網羅している。

第5章では、以上の考察と提言に基づいて、プロジェクト化時代の組織運営と人材のあり方を考察している。プロジェクト組織論と人材育成論を製造業の事業特徴に照らした提言である。



この事業は、競輪の補助金を受けて実施したものです。

<http://keirin.jp/>

